

LibreOffice+JODConverter を使って、reST から PDF を作ってみる。

LibreOffice 経由で PDF 作れるそうなので作ってみました。

ほとんど先人の知恵を少しばかり拝借した代物なんですが。

なお、Windows で作業を行いました。

必要なもの

とりあえず適当にダウンロードしておいてください。

- java
- LibreOffice
- jodconverter
- python
- docutils

インストール

java

インストーラーを実行して、インストールを行います。

環境変数を設定します。インストールされた java に合わせてください。(まあ、お決まりですけど)

Python

自身の環境では Python 2.6.6 が既にインストールされていたので、それを使っています。多分 2.7 でもいいと思いますけれども。

必要ならインストーラーを実行して、インストールを行います。

自身の環境では、インストールパスは C:\Python26 でした。

この時点ですでに、パスに"C:\Python26;C:\Python26\Scripts"が追加されているはずですね？

Docutils

PyPi(<http://pypi.python.org/pypi> ,読み:ぱいぴーあい)から

Docutils

をダウンロードし、セットアップします。

LibreOffice

これもインストーラの指示に従ってインストールします。

インストール先のディレクトリを確認しておいてください。

"C:\Program Files\LibreOffice 3"

インストール後の準備

上記が滞りなくダウンロード、セットアップされていることを 確認出来たら、以下を行います。

- styles.odt のコピー
- バッチファイルの作成(rst2odt.bat)
- styles.odt の編集

本来はもっと厳密無出力用の設定を行わないといけないんでしょう けれども、ページ設定を A4 にしたものを簡単に用意しておきます。

styles.odt のコピー

まずは styles.odt をコピーしてきましょう。自分の環境では、以下 にありました。バージョン等によって変わりますので環境に合わせてください。

C:\Python26\Lib\site-packages\docutils-0.6-py2.6.egg\docutils\writers\odf_odt\styles.odt

バッチファイルの作成(rst2odt.bat)

バッチファイルを3つ作成します。いちいちタイプするのが面倒なので。

なお、記述の際にはファイルパス、ファイル名とも自分の環境に合わせて 適宜変更していただければいいと思います。

start.bat

LibreOffice を「待ち受け」状態にしておきます。これに JODconverter からファイル変換の命令を出すわけです。

```
set sofficeexe="C:\Program Files\LibreOffice 3\programsoffice.exe" %sofficeexe%  
-headless -accept="socket,port=8100;urp;" -nofirststartwizard
```

rst2odt.bat

スタイルシートオプションに"styles.odt"を指定したものを作成しておきます。

```
c:\python26\python.exe C:\Python26\Scripts\rst2odt.py --stylesheet=styles.odt sample.rst  
sample.odt
```

odt2pdf.bat

JODconverter を実行するためのバッチファイルです。 start.bat を実行してから、これを実行します。

```
java -jar C:\usrw32\bin\jodconverter-2.2.2\lib\jodconverter-cli-2.2.2.jar sample.odt  
sample.pdf
```

styles.odt の編集

コピーした styles.odt のページ設定とフォント設定を変更します。

1. メニューから 書式 > ページ を選択します。
2. [ページ]タブをクリックし、用紙の書式を"A4"に、余白を調整します。
3. [OK]ボタンを押します。
4. メニューから ツール > オプション を選びます。
5. ツリーから、 LibreOffice Writer > 既定のフォント(西欧諸言語) を 選択します。
6. 現在のドキュメントのみ にチェックを入れます。
7. 画面右下の[標準]ボタンを押します。これで OS で使えるフォントが 設定されます。
8. 既定のフォント(アジア諸言語) も同様に設定します。自分はここ で使用フォントを メイリオ に設定しました。
9. ファイルを保存します。

これが、書式を規定するファイルです。他にも見出し、など書式の設定 をしなくてはならないのですが、ここでは飛ばします。

それらを終えたら以下を行っていきます。

- .rst ファイルの用意(sample.rst)
- rst2odt.bat の実行
- start.bat の実行
- odt2pdf.bat の実行

注意点

start.bat で LibreOffice を待ち受け状態にしていますが、変換が 終わったら、タスクマネージャから "soffice.exe" を終了させる必要が あります。

Note!

Windows のコマンドプロンプトの命令、"*tasklist*" と "*taskkill*" を 組み合わせるとよ
ろしいかもです。

自分の環境は…

今回使用した環境では JODConverter を追加で配置したので、 すべて最新バージョンというわけではありま
せん。JODConverter 自体も 最新の 3.0-beta ではないですしね。

- Python 2.6.6
- docutils 0.6
- LibreOffice 3.3.1
- JODConverter 2.2.2